

床のワックスはなぜ黒くなるのか???

2004.02

ワックスの塗ってある床を水で濡らして、すぐスリッパでちょっと滑らせてみると、ツルンと滑りやすくなっているのがわかります。5～10分してもう一度同じようにしてみると、もっと滑りやすくなっているのが感じられるでしょう。しかもよく感触を確かめてみるとヌルツとした感じで、表面が少し溶けかかっているような感触がしませんか？特に塗布後、新しいワックスではハッキリわかりますね！そして一晩濡らしたままでおくと、白く変色してしまいます。

そうです。ワックスは水に犯されるのです。

これが綺麗な水なら乾けば殆んど元に戻りますが、汚れた水だったら... しかも毎日繰り返し汚れた水で濡らしていたら、乾燥するまでの間に少しずつ黒くなって行ってしまいます。

そして、黒く汚れたワックス面を赤パッド、青パッドで機械洗浄した時、青パッドの方が（研磨剤がより多いパッドの方が）きれいになることも経験しているでしょう？これは洗ってきれいになったというより、深く削ったからきれいになったと考えるべきです。透明であったワックスの塗膜の中に明らかに汚れが入り込んでいるのです。

つまりワックスは、一旦表面で抱き込んだ汚れを重力により、少しずつ下の方に落としていくのです。剥離すると綺麗になるのはこの証拠です。

残っているワックスの塗膜を黒く抱き込ませてしまって、それを粗いパッドで削り取ってしまうのは不経済なことですし、作業時の汚水廃棄は地球環境的にも迷惑と考えるべきです。

それではアメリカはどうでしょう？

日常、1モップ1バケツ法で、汚れた水で拭いています。それでも驚くほどきれいですね。

これは日本と大きく異なるメカニズムがあるからです。請負金額の差もありますが、空気の乾燥度が大きく影響しているのです。ワックスが犯される前に乾いてしまうからです。湿った汚れが抱き込む時間がありません。しかも、バフイング（研磨）を頻繁に行っていますので、硬くなった塗膜表面で汚れをガードしているからです。ですから同じ方法では、日本の特に湿度の高い本州では経済的には行かないわけです。

また、バフイング方法も、ワックスの表面を削るというバフイングを行いますと、汚れが下に落ちて行くより早いタイミングで、ミクロン単位で薄く削り取ってしまうため綺麗に管理はできますが、この方法ですと不経済でもあり、バフ作業により発生したワックスの微粉末処理のための除塵作業が必要になります。

それでは、日本ではどのようにしたらいいのでしょうか？

まず日常、常にきれいな水で拭くことが大切です。それにはオフロケーション方式が最適です。極細化繊のループ型のフラットモップ（Eモップ: Easy Ecology Economy）ならコストも下がります。そしてモップを力一杯強く絞って、拭いたあと早く乾燥させることが必要です。通常の押しつけるリンガーではモップをきつく絞れません。

ローラー型のモッププレス（当社輸入元）が必要です。

一昔前の学校での木床の掃除方法を思い出してみてください。
強く絞った雑巾を二つ折りにして押しつけながら一方向に拭いて
ただけで、塗膜のない白木の床が綺麗に維持できていました。



その基本を応用した拭き方の基本は、写真のように
片手でハンドルを軽く押さえつけるように、
おなかでハンドルを押しように、
もう一つの手はハンドルがはずれないよう
に支えるだけ・・・

実にラクに綺麗に拭くことができます。
そしてスポット的な汚れも残さないように拭き取り
ましょう。

バフing方法は、削るというより、綺麗にした床を磨きながら硬化させるという考
え方がいいでしょう。ワックスの削られた微粉末は、塵埃とも言えます。塵埃発生を抑
えたバフingは、特に病院環境では重要です。

また床に凹凸が多い日本の床に、全面接地の大型バフマシンも、バフ効果のムラを起
こして検討の余地があります。

金属架橋を起こした古いワックスが、剥離の時なかなか取れないで苦労した経験があ
るでしょう。ワックスの塗膜の硬さは、塗った直後と普通に乾燥したと見る時と、1週
間あるいは何ヵ月もたった時期では、かなり異なります。古い塗膜を更に長持ちさせる
技術が品質保持と経済性また地球環境保全に重要になります。

ワックス類も、ISO14000 に対応し、耐摩耗性に特徴を持つドイツ・エコラボ社の製
品をお奨めします。

ワックスのメカニズムを考えながら、バフing技術、また店舗やフロアによる歩行
頻度の違いなど、色々な付帯条件を考えながら管理方法を試していくと、経済性と高品
質を実現したベストな方法にたどり着けると思います。



株式会社メディカル・マネジメントサポート

〒441-8057 愛知県豊橋市柱七番町101

Tel .0532-48-9370 Fax .0532-48-6362

URL : <http://www.m-m-s.co.jp>

E-mail : info@m-m-s.co.jp